

ホステリングマガジン vol.24 / 2021 Spring

JAPAN  
Youth Hostels, Inc.



# Hostelling Magazine

巻頭インタビュー

宇垣 美里

未知のものに出会う、何者でもない自分である。  
突き詰めていくと、結局は「旅」になる。



この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

おいしさを、選ぼう。



ぼくらのミカタ。  
**ランチパック**

# Digital HI Membership

ユースホステル デジタルメンバーシップ



## 世界中のユースホステルで使える！

世界80の国と地域にあるおよそ3600ヶ所のユースホステルをリーズナブルなメンバー価格で利用できます！



## PC または スマホ で登録！

登録は簡単3ステップ！クレジットカードまたはPaypalの決済後すぐに会員証がメールで届きます！  
Apple Wallet / Android にも対応しています。



## 旅だけじゃない！Digital Member だけの特典も！

世界各国のユースホステルが提携している博物館や鉄道などの会員割引提携サービスはもちろん、日本国内の一部のユースホステルではDigital Member だけが受けられる特典をご用意しています。

スマホで旅する？  
スマホと旅する？



## 登録はカンタン3ステップ！

- STEP 1** QRコードまたは日本ユースホステル協会HPから登録ページへ
- STEP 2** 必要項目を入力して規定を確認。  
クレジットカードまたはPaypalでお支払い
- STEP 3** 世界中で使えるユースホステル会員証(PDF)がメールで届いて登録完了！



adt/hm14d

※画面はハメ込み合成です。



HOSTELLING INTERNATIONAL

# Vision

Principle and Philosophy

## *Inclusivity*

世界を超えて

## *Learning and Understanding*

考えよう

## *Sustainability*

僕らと子ども達の未来のことを

日本ユースホステル協会はユースホステルのビジョンに基づき、日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

## Line up

インタビュー ..... P02  
宇垣美里

未知のものに出会う、  
何者でもない自分である。  
突き詰めていくと、結局は「旅」になる。

Youth Hostel Pick up ..... P08  
新しい時代に、心地よい距離感のある空間——  
「東京の家」として親しまれる施設に。  
東京上野ユースホステル

Hostelling Magazine × 地球の歩き方... P12  
一生に一度の大冒険 人生が変わる!  
海外ロングトレイル&カヌールート

■はるかピレネーから続く巡礼の路  
ゴールはサンティアゴ・デ・コンポステーラ

■世界のハイカーが憧れる  
ロングトレイルの聖地

■古代のインカ道を利用した  
マチュピチュへ続くトレイル

■極北の地を流れる大河  
ユーコン川をカヌーで北上

Sustainable Tourism ..... P18

ユースホステルはじめての一步 ..... P20

教えて! 旅GIRL ..... P21

松島むうの晴れときどき旅びより..... P22

※本紙の情報は2021年2月20日現在のものです。変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。  
発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会  
編集・発行人 寺島 真  
TEL (03) 5738-0546  
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1  
国立オリンピック記念青少年総合センター内  
※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。  
制作・印刷製本/サンメッセ株式会社

巻頭インタビュー

# 未知のものに出会う、 何者でもない自分である。 突き詰めていくと、結局は「旅」になる。

〈フリーアナウンサー〉 宇垣 美里

甘いルックスから発せられる凛とした言葉で  
独特の存在感を放つ宇垣美里さん。実は、けっこう「濃いめ」の旅人。  
休みが2日取れば即座に旅へ出かけ、  
つらくなったらパスポートを取り出し「いつでも逃げ出せるように」と持ち歩く。  
「フリーアナウンサー」という肩書きからは決して見えてこない、  
旅、文化、人生への想い…。  
プリズムのように多面的な宇垣さんの  
くると丸い瞳が捉えている景色をシェアしてもらいました。

## 初めての海外旅行は フランスでほぼ一人旅。

——ラジオやTV、モデルのお仕事のほかにも、コラムの連載をいくつも抱えている宇垣さん。その中で、かなり頻繁に旅の話題が出てきます。相当な旅好きとお見受けしましたが、初めての海外旅行は、いつ、どちらに行かれたのですか？

大学2年生の時、叔母が仕事でフランスに行く際に「こない？」と誘ってもらったのが初めての海外です。先に叔母が渡仏して、後から私が一人で行くという形でした。

——現地ではどんな風にして過ごしたのですか？

叔母は仕事ですから、日中はほぼ単独行動。一人であちこち観光しまくりました。ルーヴル美術館、オランジュリー美術館、ノートルダム寺院…。ツアーに申し込んで、ジヴェルニーのモネの終の住処で睡蓮の庭も見ました。

## ノンストップで歩き続け 鼻血が止まらなくなった。

——初海外からなかなかのハードスケジュールですね。盛りだくさん！

大学生で若かったこともあって、休みをほとんど取らずに歩き続けました。そうしたら、ホテルに帰って鼻血が止まらなくなって(笑)。あまりにも休憩を取らなかったせいで、倒れかかった日もありました。「あれ、なんかクラクラする。何か、何か飲み物を飲まなければ…」と、フラフラしながらルーヴル美術館の1階のカフェに入って、レモンスカッシュを飲んだりして(笑)。

——フランスにはその後も何度か行かれたのですか？

叔母の仕事先はパリとミラノが多かったので、フランスやイタリアへは便乗してよく行きました。イタリアはミラノ以外にも、妹とフィレンツェやベネチアに行ったり。

——フィレンツェ! いいですね。

フィレンツェは歩いて回れるほどコンパクトで、空間認識が得意な私は一度地図を見ただけでさくさく観光できました。ベネチアは島全体に漂う海と魚のにおいが何とも心地よかったです。人によっては生臭く感じるかもしれないけれど、私は神戸の港町育ちなので、海のそばが一番落ち着くんだということを再認識させられました。

## 生々しい戦禍にふれた セルビア、クロアチアの旅。

——大学では国際政治やパブリック・ディプロマシー(広報文化外交)を専攻していたとか。

外交と報道の関心に興味があったんです。ゼミの先生が旧ユーゴスラビアの研究をされていたので、その流れでセルビア、クロアチアへゼミ旅行にも行きました。

——旧ユーゴスラビアの国々って、実際に訪れてみてどうでしたか？

クロアチアにはドブロブニクという「魔女の宅急便」の舞台にもなった美しい街が南部にあるんですけど、私たちが行ったのは首都のザグレブ。12月の吹雪の中でした。旧社会主義国家らしい質素なトーンで、優しい方が多い、面白い場所でした。クロアチアからは陸路でセルビアに入ったんですけど、ベオグラードまでの移動の途中でユーゴスラビア紛争の銃撃の跡が残った建物をいくつも見ました。

——ユーゴスラビア紛争は1990年代から2000年代初頭、ざっと20～30年ほど前のことですね。宇垣さんが旅をされた2010年頃も、まだそんな状況だったのですか。

穴だらけの建物があちこちにそのまま残っていました。建物を壊して更地にするほどのゆとりも、当時はなかったのかもしれない。短い移動でしたが「ここで、これだけの戦いがあったんだ…」と。生々しい傷跡でした。

## セルビアで人生最大の モチ期が到来!

——セルビアはどんな国でしたか？

民族紛争がまだ続いていたからか、旧ユーゴスラビアの指導者のチトー氏のカレンダーを売っていたり、「コンボはセルビアの領土だ!」という政治的なメッセージが書かれたキーホルダーが売られていたり。旧ユーゴスラビアの名残が強いなという印象で。

——貴重な経験をしましたね。

「現地に行かないとわからないことってたくさんあるんだ」ということを、初めて感じた旅だったかもしれません。街中の至るところで若い人がブラブラしていて、もしかしたら仕事がないのかな、とか。あとは、食糧自給率がものすごく高いので食べ物に異常に安いとか(笑)。

——現地の方ともふれあったりしましたか？

セルビアで会った方々のほとんどは「日本人を初めてみた」という感じでした。でも、どうやら私、セルビアの方にマッチする顔だったようで、どこに行っても老若男女問わず「こっちにおいで!」「これあげる!」と。あんなにモチたの、後にも先にもないくらい(笑)。

——モチ期がセルビアで!

こんなにかわいがられるんだったら「私セルビアで生きていけるわ」と思いました(笑)。そういう場所が一つ出来たことで、日本でくじけても「ここが最後じゃないしな」と思えるようになりましたね。

——宇垣さんの強さの源がそこに。

仕事も含め「この場所でやり遂げなきゃいけないものなんて何一つない」という気持ちを持つところは、私の強みでもあると思います。

## ヨーロッパを旅する理由。

——大学の卒業旅行はウィーン、プラハ、ブダペストだったそうですね。ヨーロッパがお好きなんですか？

古い教会やお城を見るのが趣味なので、どうしてもヨーロッパが多くなりますね。教会や寺院って、その国の思想や宗教観、技術や文化がギュッと詰まっている。国によってまったく違うのが面白いです。

——特にどの国の教会が印象に残っていますか？

建築の幅の広さでいうとフィンランドですかね。北欧建築って変わったものが多くて、岩の中に造られたような教会や、曲げわっぱみたい

に造られた教会もありました。セルビアの教会も質素だけどキレイでした。ロシアっぽいけれどちょっと違う、セルビア正教独特の雰囲気を感じられました。

——旅の行き先はどうやって決めているのですか？

まずお休みが先に決まるので、その季節に楽しいところはどこかな…という感じで探します。一人で行くんだっとならなるべくフライトが短いほうがいいので、フィンランドとか。パリだと12時間だけど、フィンランドなら9時間ですよ。近い！

——ん…!? ちょっと基準がおかしくなってる感じが笑。

いや、9時間は近いですよ！(笑)。旅って、体力の問題も絶対にあると思うんです。今は29歳ですが、すでに学生時代のようにハードには回れません。だからなるべく若いうちに、遠いヨーロッパに行っておきたいんです。

## 早く海外に出れば その分だけ長く思い出を楽しめる。

——若い今だからこそ遠くに、というわけですね。

たとえば平均寿命の87歳まで生きるとして、29歳の私が見たことは、あと58年間も懐かしく思い出して楽しめます。けれどその翌年だと57年間、10年後だと47年間しか楽しめません。なんてもったいない話でしょう！

——思い出をかみしめられる時間がどんどん短くなってしまふ、と。

だから生きている中で一番若い、今、この時に、できるだけ遠いところに無茶してでも行きたいんです。大学時代から、バイトをして資金がたまればすぐさま飛行機に飛び乗って旅に出ていました。親にやんややんや言われながらも、あちこち行っておいて本当によかった。いや、本当はもっと行ってあげばよかった…。

——今までのヨーロッパ旅行で、何度も思い出して楽しんでいるのはどんな旅ですか？

12月に行ったドイツのクリスマスマーケットは最高に美しかったですね。湿度が低いからか、イルミネーションのキラキラがものすごく美しく映えるんです。どこまでも光が届く感じで。店先のクリスマスグッズはいちいち精巧でかわいい、そこら中でホットワインが売っている。何気なく立ち寄るお店のソーセージやウイナーが、どれもこれもめちゃくちゃおいしくて。フランスのクロワッサンは、別格。なんなんでしょうあのおいしさは。スペインでは水よりもサングリアが安いので、水代わりに飲みつつ、ブラブラ歩くとも500mおきくらいにジェラート屋さんがある。そうしたら入るしかないじゃないですか。で、入ります。はい、食べます。「おいしいー!」。この繰り返しですね(笑)。

——おいしいものを語る時の熱量がすごいです(笑)。

その国の緯度、温度、湿度で味わうからこそおいしいもの、美しく感じられる風景って絶対にあります。どんなにVRの技術が進化しても、これは変わらないと思う。香りの伝わり方一つとっても、国によって全然違いますし。

——空港に降り立った瞬間に、その国の香りを感じることはありますか？

トルコに着いた瞬間は「なんだこりゃ!」とひっくり返りそうになるほどのすごいスパイスのにおい。スペインはオレンジの香りがふわっと漂っていたなあ。フィンランドのヘルシンキは、空気自体が凍っていました。雪が音を吸って、静謐(せいひつ)な感じで。キーンって音が聞こえてくるような、独特の雪のにおい。大好きです!

——日本は何のにおいですか？

ダシと醤油です。落ち着くんですよ「ああ〜」て(笑)。

## その国を好きでいるために 準備は完璧にする。仲間は全肯定する。

——旅をより楽しいものにするコツをお聞かせください。

まず、旅に出かける前に地図や交通経路を頭に叩き込みます。地図は見るより覚える方が早いし便利。旅先で地図を広げるのって、「不慣れた旅行者で一す。」と言っているようなものですから。

——宿泊先を選ぶ基準は何かありますか？

利便性を大事にしています。アクセスがいいところで、危なくないところ。私はツアーでは行かないから、自分の身は自分で守らないといけない。一緒に行く仲間も女友達がほとんどですから、安全な場所が第一です。

——危機管理が徹底されていますね。

何か嫌なことがあって、その国のイメージが悪くなるのを避けているんです。せっかく行くなら好きなままにいたいから、絶対に嫌な目に合わないようによくガードします。

——常に戸籍謄本も持ち歩いているとか。

一人旅が多いからこそ、何かあったときに他人に迷惑をかけないための準備は徹底的に行きます。

出発前は自分の部屋の掃除もしっかりします。水回りをピカピカに磨き上げて、棚の中まで整理整頓して行きますよ。だって、もし旅の間に死んじゃったら、後片付けにきてくれる親がかわいそうでしょう。きれいな部屋に帰ってくるのは気持ちがいいし、疲れた体にもやさしいです。

——お友達と行かれることもあるんですか？

もちろん! 高校時代の神戸の友人、大学時代の京都の友人、あとは妹が多いかな。旅が近づいてくるとグループLINEで「休みを勝ち取ろう!」とか、お互いに励まし合います(笑)。妹は留学をしていたから英語も堪能。何度も助けてもらっています。今さら互いをジャッジする間柄で

もないし、性格もわかっているから楽で(笑)。

——旅に行くと、同行者のいろんな面が見えてきますよね。

うーん、友人と行っても妹と行っても、嫌なところは見えません。絶対ないです。旅に行く時は「相手のことを全肯定する」というルールを徹底しています。私もそうだし、相手もそう。だって、そのほうが楽しいじゃないですか。

## 旅先では、漂流者。 自分の異物感を心地よく思う。

——日本に帰ってくるとほっとしますか？

あーあ、帰ってきちゃったな…と思います。旅の疲労に加えて「帰ってきてしまった…日常が始まる、ウエ〜」みたいな。街中のいろんな情報が入ってきて、「あー、うるさいっ!」ってなりますね(苦笑)。海外にいると当事者じゃなくなるというか、旅って、本を読むのに近いと思うんですよ。私は登場人物ではない。その国の世界を構成していない、圧倒的な他者。映画や舞台をずっと見ている感じがして、とても自由に感じます。

——海外に行くことを「引きこもりに行く」とおっしゃられていましたね。

海外に行くことって、関係性を切ることだと思うんです。限りなく一人に近い、何者でもない自分と孤独を味わいにいく感じ。良くも悪くも一期一会、ありのままに居られるというか、きれいに着飾る必要もないし、格好つける必要もないですし、わからないこととか知りたいことってまっすぐに聞いてもだいたい人は教えてくれるし答えてくれる。こういう仕事をしているからこそ、ゼロになれる、何者でもない自分になれるっていうのは私にとって大きくて。日本だと、つながりすぎますね。周りの目を気にしなきゃいけないから、大好きなブランコも夜しか乗れません(笑)。

## いつだって逃げ出せる。 そう思えば、強くいられる。

——日本でなくても生きられると思えるのは、とても貴重なことですね。

「ここじゃない、どこか」を知ると、その先つらくなったときにちゃんと逃げ出せます。そして、逃げる選択肢があるという事実は、この場所で踏みとどまって頑張り続ける支えになると思うんです。

——逃げる場所があるから、踏みとどまれる。

私、普段から、常備薬やクレジットカード、ある程度の現金、保険証や資料のデータが入っているUSBメモリなどを常に持ち歩いています。そして、いよいよ追い込まれてきたら、パスポートも持ち歩く(笑)。私の切り札ですね。どうしても耐えられなくなったら、いつだって、どこにだって行けると。持っているだけで絶大な安心感を与えてくれます。

## 正解を探し続けていた アナウンサー駆け出し時代。

——2019年に5年勤めたTBSを退職され、フリーアナウンサーとして新しい世界に羽ばたかれました。「在京キー局のアナウンサー」という居場所を、ずいぶん潔く手放されたなという印象でした。

生まれた時からせっかちで、生き急ぎがちな性格で。今もよくまわりから「何を焦っているの?」と聞かれます。でも、私からしてみれば、なぜ人は明日が絶対に来ると確信を持てるのかわからないんです。こんな脆弱な生き物、いつ死ぬかわからないんだから、できる時にできることをやらないと。まあ、当時はそこまで考えてはいなかっただろうけれど、私は出られると思った瞬間に外界へ飛び出すことを選んでます。

——アナウンサー以外にも、やりたいことが見えたという感じ？

自由で、大らかで、大好きな会社でしたけど、世の中にはこんなにもたくさん仕事があるし、生きる場所はたくさんある。いろんな生き方ができる人生がいいなって。

——局アナ時代は、求められる像に自分をはめなければいけない苦しさもあっただけですか？



### Profile 宇垣 美里

1991年4月16日生まれ、兵庫県出身。O型。同志社大学卒業後の2014年4月、TBSに入社後、数々の人気番組を担当。19年3月、TBSを退社。現在はオスカープロモーションに所属し、テレビやラジオ、CM出演のほか、執筆活動も積極的に行い、週刊プレイボーイ(集英社)『宇垣美里の人生はロックだ!!!』、VIVI(講談社)『宇垣美里の私から見えている景色』など連載多数。



ヘアメイク：松田美穂、スタイリスト：滝沢真奈、フォト：小林潤次（七彩工房）  
（アイテム／プライス（税抜）／ブランド／問い合わせ先）  
靴／¥15,500／ダイアナ／ダイアナ 銀座本店（tel:03-3573-4005）  
その他／スタイリスト私物

うーん、最初はそれこそ服もメイクもプライベートも、アナウンサーらしくしなければと四苦八苦していた時期もありましたけどもね。報道をやりたいけれど、私のビジュアルでは説得力がない、報道向きじゃないという現実もあって。

バラエティの現場では「あの時の正解は何だったんでしょうか？」と周囲に聞いてばかりで、常に正解を求めていた時期もありました。でも、TBSの先輩たちって、本当に自由な方が多いんです。特に私の上司は「いいんだよ、宇垣がやりたいようにやれば」と、背中を押してくれるような方で。TBSにはラジオもありましたので、比較的自由に自分の言葉で語ることができる環境もありました。苦しさよりも楽しさのほうが多かった。

——それでも、外界へ飛び出した。

大好きな会社だったけど、辞めたからって人生真っ暗だとは思わない。今はフリーのお仕事していますが、それが向いていなかったら別の仕事をすればいい。たとえば、海外に住んで働いてどんな感じなんだろうとか、違う人生を考えない日はないです。

## たくさんの人に好かれなくていい。 闇キャラじゃなく、諦観しているだけ。

——宇垣さんの自己肯定感の強さは、どんな環境で育まれていったのでしょうか？

私の人格をつくったのは、まぎれもなく高校時代ですね。神戸の公立高校ですが、すごく自由で個性豊かな学校でした。服装もジャージ、ユニフォーム、ゴスロリ、なんでもあり。オタクだろうが、ギャルだろうが、ガリ勉だろうが、関係ないという文化。

——互いを尊重し合える学校だったんですね。

今でこそ職業として外見は大切ですが、高校時代に顔のことをかわいいたの、かわいくないだのと言われたことはありませんでした。その分妹が、「お姉ちゃんは世界で一番かわいい！」と私のことを全肯定してくれました。そういう友達と妹がいてくれたから、他には何もいらない。

——たくさんの人に好かれようとしなくてよかったんですね。

全ての人に愛されることは無理です。親もそういうタイプで、気が合わない先生がいたとしても「そんなんやったら別に近寄らんでええから静かにしとき」と。

——他者を攻撃せずに、ストレス源から自分を切り離す、と。

結局、それほど優しくはないんです、私。ストレス源にわざわざ「あなたのやっていることはおかしいです」と教えてあげるほど、優しくない（笑）。常に楽しい気持ちでいたいので、しんどいとか理不尽と思うこと、合わないものを直すことはしません。

—なるほど。宇垣さんは「闇キャラ」などネガティブな人のイメージがありましたけど、実際はポジティブな人ですね。

ポジティブです。そして、人生に対していい意味で諦観があるんだと思います。以前「人には人の地獄がある」という発言をして闇キャラといわれたんですが、いや、それは真理だから…みたいな。みんなそれぞれに大変なことがある、だからみんな頑張ろうね、という気持ちなんですよ。

## 何者かにならなくていい。 ただ、引き出しを増やし続けたい。

—宇垣さんの言葉はキラリと光るものばかりで、文章もとても素敵です。

ありがとうございます。小説、マンガ、アニメ…。とにかく日々何らかの物語を摂取し続けているからです。中学生の頃、図書室の本を全部読む!と決めて、いわゆる名作の文学なんかはその頃にほぼ読みました。今は海外の文学を読んでいて、アメリカ、韓国、台湾…。チベットの小説も面白かったですね。

—アナウンサー、モデル、コラムニストと引き出しがものすごく多いですが、宇垣さんはズバリ何を狙っているのですか？

引き出しを増やして何者かになろうとしているんじゃなくて、ただただ単純に引き出しを増やしたいんです。それが好きなんです。海外旅行もそうだし、本を読むことも、何かを見に行くことも、すべてそう。

—集約せず、ただ増やしたい。

もうこれは「癖(へき)」ですね。とにかく増やすことが好きなんです。知っていること、見たことがあるもの、食べたことがあるものが増えていくのが好き。その副産物として文章を書いたり、表現の仕事ができれば幸せだなと。

—直近では、コスメの引き出しもパーンと開けてしまいました。

コスメへの愛も根本は同じですね。メイクをしているんな自分になるのが好きなんです。何か一つの場所、一つのものに固定されてしまうのが、本当に苦手で。

—見たことがないものを見たい、知りたい、経験したいと。

それを突き詰めていくと、結局は「旅」になるんですよ。未知のものに出会う、何者でもない自分である。旅はそれが全部手軽にできますから。新しいことを知れば知るほど、それだけ世界は広がるので、もっと自由になれる。

—はやく自由に旅ができるようになるといいですね。

行きたい場所ばかりどんどん増えて困っています(笑)。ポルトガル、ポーランド、ベルリン…。ロシアのウラジオストクにある、わけのわからない(笑)水族館にも行きたい。もっともっと、知らないことに出会いたいです。

### 宇垣美里さん 著書

## 宇垣美里のコスメ愛 (小学館) 1,500円(税抜)

### フリーアナウンサー宇垣美里の初の美容本

大学入学を機にメイクの面白さに開眼し、TBS時代は多忙な日々をスキンケアで癒やして乗り越えていた宇垣さん。実は、自他共に認める美容オタク。美容誌『美的』に登場するたび、読者が選ぶ「好きなメイクランキング」で上位を独占する宇垣さんのマニアックな目線が光る、コスメへの愛と実用ノウハウが詰まった1冊です。

自身のSNSアカウントを持っていない宇垣さんが、今まで伝えきれなかったコスメのこと、自分の内面のことを語りつくす1冊。本人によるメイクHow toや、美肌の秘密に迫る「宇垣ベストコスメ<スキンケア編>」は必見!



宇垣美里のコスメ愛



### 宇垣美里さんの直筆サイン入り

ビューティブック『宇垣美里のコスメ愛』(小学館)

ファーストフォトエッセイ『風をたべる』(集英社)

2冊セットで **1名様にプレゼント!**

(各1冊)

ご応募は日本ユースホステル協会ホームページの専用お申込みフォームから!  
<http://www.jyh.or.jp/hm/>

※当選発表は、商品の発送を以てかえさせていただきます。

応募締切  
2021年  
4月末日



## つづきをダウンロード(無料)



Hostelling Magazine vol.24  
まとめてダウンロード



Sustainable Tourism ..... P18



インタビュー ..... P02  
宇垣美里  
未知のものに出会う、  
何者でもない自分である。  
突き詰めていくと、結局は「旅」になる。



コースホステルははじめの一步 ..... P20



Youth Hostel Pick up ..... P08  
新しい時代に、心地よい距離感のある空間——  
「東京の家」として親しまれる施設に。  
東京上野コースホステル



教えて! 旅GIRL ..... P21



Hostelling Magazine × 地球の歩き方... P12  
一生に一度の大冒険 人生が変わる!  
海外ロングトレイル&カヌールート  
■はるかピレネーから続く巡礼の路  
ゴールはサンティアゴ・デ・コンポステーラ  
■世界のハイカーが憧れるロングトレイルの聖地  
■古代のインカ道を利用したマチュピチュへ続くトレイル  
■極北の地を流れる大河ユーコン川をカヌーで北上



松島むうの晴れときどき旅びより ..... P22